

# あいち病害虫情報 最新情報

平成28年11月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 期間の前半は気温がかなり高くなる見込み

名古屋地方気象台11月10日発表の1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。なお、気温は、1週目は高い確率70%で、2週目は高い確率50%です。

## キャベツ、ハクサイの病害虫

フェロモントラップによるコナガの誘殺数は、一部地域で11月第1半旬から増加しています。ほ場における発生量は、ハクサイではやや多くなっています。ほ場をよく観察し、早期発見、防除に努めましょう。コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避けましょう。また、コナガが発生しているほ場では、収穫後は残渣を速やかにすき込みましょう。

フェロモントラップによるハスモンヨトウ及びオオタバコガの誘殺数はやや多い状況が続いていましたが、おおむね平年並に落ち着いてきました。しかし、今後も気温は平年に比べ高く推移する見込みなので、引き続き、ほ場での発生状況に注意しましょう。

キャベツやハクサイでは、菌核病が発生する時期です。発病株は直ちに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。なお、本病の病原菌は多くの種類の植物に感染します。菌核病が発生している地域では、他作物での発生にも注意しましょう。

ハクサイでは、アブラムシ類の発生量がやや多い状況です。今後も気温が高く、発生に好適な気象条件が予想されているので、ほ場での発生状況に留意して防除しましょう。11月1日発表の「平成28年度病害虫発生予察注意報第7号」を参考にしてください。

## 果菜類の病害

果菜類の灰色かび病やトマト葉かび病、トマトすすかび病は、施設を密閉し施設内の湿度が高まる11月中下旬頃から発生が多くなります。積極的に換気や送風を行って、多湿にならないようにしましょう。また、発病部位は速やかに取り除き、適切に処分しましょう。

トマトでは、草勢が衰えると、葉かび病やすすかび病の発生が助長されます。温湿度管理とともに、生育に応じた肥培管理にも注意しましょう。

## イチゴの病害虫

ハダニ類は、多発すると防除が難しくなります。ハダニ類の防除では、ミツバチや天敵への影響を考慮して薬剤を選定しましょう。気門封鎖型農薬を積極的に活用し、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。天敵を利用する場合は、導入前に防除し、ハダニ類の密度を下げてから放飼しましょう。

うどんこ病は、多発生すると防除が難しくなるので、初期防除に努めましょう。また、窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理に努めましょう。

## キュウリの黄化えそ病

キュウリ黄化えそ病の病原ウイルス(MYSV)は、ミナミキイロアザミウマにより媒介されます。本虫の防除を徹底するとともに、発病株は抜き取り適切に処分しましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820